

10日 土曜

出エジプト

3:13 モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』と言えば、彼らは、『その名は何ですか。』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある。』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならぬ。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところへ遣わされた。』と。」

3:15 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエル人に言え。あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が、私をあなたがたのところへ遣わされた、と言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。」

3:16 行って、イスラエルの長老たちを集めて、彼らに言え。あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、主が、私に現われて仰せられた。『わたしはあなたがたのこと、またエジプトであなたがたがどういうしうちを受けているかを確かに心に留めた。』

3:17 それで、わたしはあなたがたをエジプトでの悩みから救い出し、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地へ上らせると言ったのである。』

3:18 彼らはあなたの声に聞き従おう。あなたはイスラエルの長老たちといっしょにエジプトの王のところに行き、彼に『ヘブル人の神、



主が私たちとお会いになりました。どうか今、私たちに荒野へ三日の道のりの旅をさせ、私たちの神、主にいけにえをささげさせてください。』と言え。

3:19 しかし、エジプトの王は強いられなければ、あなたがたを行かせないのを、わたしはよく知っている。

3:20 わたしはこの手を伸ばし、エジプトのただ中で行なうあらゆる不思議で、エジプトを打とう。こうしたあとで、彼はあなたがたを去らせよう。

3:21 わたしは、エジプトがこの民に好意を持つようにする。あなたがたは出て行くとき、何も持たずに出て行ってはならない。

3:22 女はみな、隣の女、自分の家に宿っている女に銀の飾り、金の飾り、それに着物を求め、あなたがたはそれを自分の息子や娘の身に着けなければならない。あなたがたは、エジプトからはぎ取らなければならない。』

人間が自己紹介するときは、親に付けられた名前、所属の学校や仕事先、出身地や住まいなどを言います。それらによってその人の存在が明らかになるからです。しかし神様はそれらのことに左右されたり、位置づけられたりしないお方です。神以外のもので神を定義することは不可能なのです。なぜなら永遠無限でないもので永遠無限のものを表現できないからです。

ですから神様は『わたしはある』という表現をご自身に使われたのです。一方神様はご自身で有限なる人間に関わってくださるかたでもあります。そこにただ人間の神認識が生まれるのです。ですから「アブラハム、イサク、ヤコブの神」と言われました。

このような偉大な神様が私たち自身と交わってくださるということは奇跡の中の奇跡です。その

主がエジプトから民を救い出すというように、同じく私たちにも救いと守りの手を伸べてくださいます。信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

